

〔 I 〕 次の文章を読んで空欄に最も適切な語句を記入し、下線部についてあとの問いに答えよ。

古くから中国では、後世の参考にするために、為政者の言動や行った儀礼、あるいは制定した制度など、統治に関わる様々な事象を記録に残すことが重視されてきた。^{〔1〕}やがてこのような記録の一部は年代に従って体系的にまとめられ、歴史書の体裁をとるようになった。唐代にはすでに多様な内容と形式をもつ歴史書が登場しており、劉知幾が著した『史通』のように、それまでにつくられた様々な歴史書を研究、批評し、あるべき歴史書の姿を論じた書も現れた。

中国最初の歴史理論書とされる『史通』は、歴史叙述のありかたの基本となる書として『尚書』『春秋』『左伝』『国語』『史記』『漢書』の六書を挙げ、それぞれの沿革を論じている。『尚書』は漢代の呼称であり、宋代以降は『書経』と呼ばれた。周の史官の記録を基にしたといわれ、^{〔2〕}伝説上の帝王である堯・・禹から、夏・殷・周三王朝を経て、春秋時代の五覇の一人にも数えられる秦の穆公にいたる帝王・諸侯の発言を集めたものである。『春秋』は、『尚書』とともに五経の一つとされ、孔子が編纂したとされる。孔子の故郷であるの国の年代記の形式をとり、春秋時代の名前の由来ともなった。のちに『春秋』には『左氏伝』『公羊伝』『穀梁伝』の3つの「伝」すなわち注釈書がつくられた。『左伝』とはこれらのうちの『春秋左氏伝』のことであり、^{〔4〕}孔子と同時代の左丘明の編纂とされ、春秋時代の史実・言論を豊富に集めている。『国語』は同じく左丘明の編纂とされ、西周時代から春秋時代の君主や賢者の発言を国別に集めたものである。『史記』は、司馬遷が神話的帝王である黄帝から彼と同時代のの時代までを記述した通史である。司馬遷は『史記』において、歴史的な諸記録を、のような帝王の事績や、重要人物の伝記などに分類して編集する紀伝体と呼ばれる叙述形式を創始した。この形式は、が著した『漢書』にも受け継がれた。『漢書』は、『史記』が諸王朝にまたがって叙述する通史であったのに対して、前漢王朝の成立から滅亡にいたるまで、この王朝一代に限って記述する断代史の形式をとった。^{〔5〕}以後この形式が踏襲され、後漢から明王朝にいたるまで、正史と呼ばれる歴代の王朝の歴史が紀伝体断代史の形で編纂された。^{〔6〕}